

はびきのMedical⁺Net

2026

夏

Vol.19



2026年4月
小児科主任部長就任

吉田 之範

FUTURE 01~02

～子どもの呼吸器疾患・
アレルギー疾患の
診療について～

Pick Up	呼吸ケアチームより	03~04
セミナーのご案内	South Osaka Cure & Care / はびきのDチャンネル / 地域医療連携勉強会	05
学会報告さーと	日本アレルギー学会近畿地方会 / 日本結核・非結核性抗酸菌症学術講演会	06
はびきのパーソン	医務局 / リハビリテーション科	07~08
地域医療連携NEWS	循環器内科 「心不全 × 多職種 × 地域連携」～心不全診療の3本の矢～	09
連携医療機関のご紹介	たけのここどもクリニックさま / 医療法人 やまどり医院さま	10

今後の医療を
見据えて

Future

子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患の診療について

1990年代に気管支喘息が気道の慢性炎症性疾患であることが提唱され、小児気管支喘息治療・管理ガイドラインが2000年に初版が発刊されました。その後、改訂が繰り返され、吸入ステロイド薬を中心とした抗炎症治療や患者教育が積極的に行われるようになり、子どもの喘息死亡者数や入院患者数は劇的に減少しました。さらに、近年、喘息の病態の解明がすすみ、生物学的製剤が使用出来るようになりました。

しかし、喘鳴や咳を繰り返す場合、必ずしも喘息とは限りません。閉塞性細気管支炎は稀な疾患ではありますが、注意が必要です。感染や移植後など様々な要因で起こり、著明な細気管支内腔の狭窄のため、喘息と同じような呼気性喘鳴がみられます。診断には胸部CT検査が有用です。(図1) また、遷延性細菌性気管支炎に注意が必要です。3週間以上、湿性咳嗽を繰り返す場合には考慮しなければいけません。正確な診断には気管支鏡が必要ですが、抗菌薬を2～4週間投与して臨床的反応から診断することもあります。

食物アレルギー診療ではガイドラインの初版が2005年に発刊され、その後、改訂が繰り返され、食物経口負荷試験、経口免疫療法の有用性、消化管アレルギーや花粉-食物アレルギー症候群などの様々な病態の解明や、アナフィラキシー対応、生活管理指導表などが示され整備されてきました。最近ではアドレナリン自己注射に加えて、アドレナリン点鼻液が市販され注目されています。

当センター小児科では気管支喘息や喘鳴、咳を反復する呼吸器疾患の精査・治療を積極的に行っております。これからの喘息診療では、生物学的製剤を“上手く”使用することが大切ですが、鑑別診断をきちんとすることが重要です。また、年間約1,200例の食物経口負荷試験を行い、可能な場合は経口免疫療法を行っております。原因の特定が難しい場合は、他機関と連携して診療を行っております。

子どものアレルギーや呼吸器症状の対応、治療で苦慮されていることがありましたら、是非、御紹介を宜しくお願いいたします。

呼気時に撮影した胸部CT画像

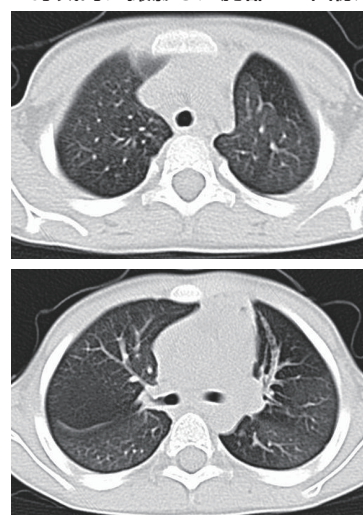
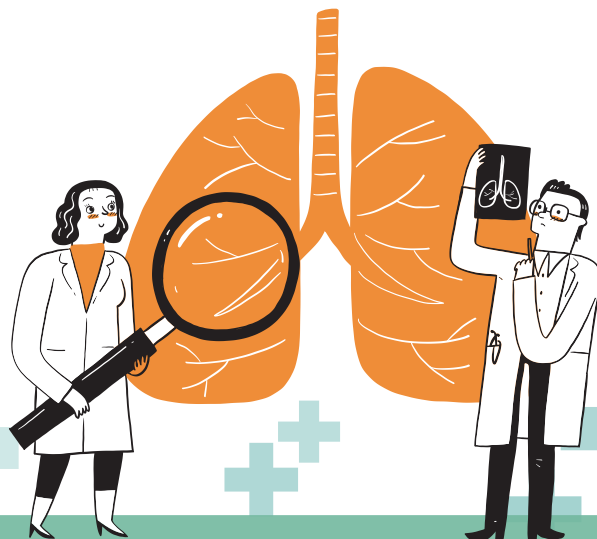


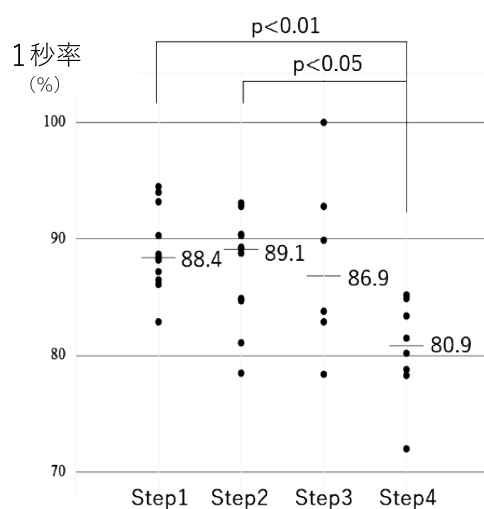
図1 閉塞性細気管支炎

乳児期から喘鳴を反復し、喘息治療を行っても改善しないため、4歳で胸部CT検査を行った。左肺上区、舌区S5、左肺下葉縦隔側に呼気時に透過性の残存を認め、同部位は吸気時にも透過性亢進しているため air-trapping と考えられた。閉塞性細気管支炎でみられる mosaic attenuation と考えられた。



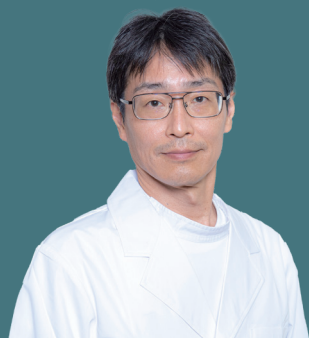
呼吸機能検査

我々は積極的に呼吸機能検査を使用しています。喘息診療では、学童初期の呼吸機能の1秒率の値によって、思春期頃の寛解率が分かるという報告があります。6歳から10年以上通院されている方を対象とした我々の病院の研究でも、思春期頃にStep4の喘息治療が必要な患者さんは、Step1, 2の治療をしている患者さんと比べて、6歳時点の呼吸機能検査で1秒率が低下していました。(図2)つまり、学童の初期に呼吸機能検査をすることで、先のことを想定した治療計画を立てることが出来ます。呼吸機能検査は以前からある検査ですが、“やっぱり大切な検査”と言えるでしょう。喘息と診断されている子どもが小学生になった頃には、一度、呼吸機能検査を試してみるとよいと思います。必要があれば呼吸機能検査をさせていただきますので、是非一度、呼吸機能検査を試してみることをおすすめします。



16～18歳時点での喘息治療レベル
吉田之範ら アレルギー2022;71:221-230

図2 6歳から16～18歳まで当科に喘息で通院している患者38名の6歳時点の1秒率の比較



小児科
主任部長

吉田 之範

YOSHIDA YUKINORI

〈経歴〉1996年3月 関西医科大学卒業。同年6月より大阪大学医学部附属病院にて研修医として勤務。市立泉佐野病院、大阪大学医学部を経て、1999年10月より府立羽曳野病院（現・大阪はびきの医療センター）小児科に勤務。同センター小児科医長、副部長を歴任し、その間、大阪母子医療センターの医長も兼務。2026年4月より大阪はびきの医療センター小児科主任部長に就任。

〈資格など〉日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医・指導医（小児科）／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）インストラクター／小児慢性特定疾病指定医（小児科）／臨床研修指導医

小児科の
詳細はこちら





呼吸ケアチームより

当センターの特色として代表的な疾患の一つが呼吸器疾患ですが、患者さんの高齢化や病態の複雑化及び治療高度化に伴い、呼吸管理やリハビリテーション、服薬支援、退院支援など、多職種による包括的な介入の重要性が高まっています。

このような背景から2007年に呼吸ケアチームが設立され、医師、専門・認定看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士などが連携し、幅広い呼吸器疾患に対して、診断・治療から療養支援まで患者さん一人ひとりに応じた包括的な呼吸ケアを提供しています。

1 急性期から慢性期の包括的治療と呼吸ケア

当センターの急性期医療では、呼吸器感染症やCOPD・間質性肺疾患の急性増悪などによる重症呼吸不全に対し、呼吸器内科、感染症内科や集中治療科などの医師が連携し、ICUやHCU入室の上で高度な呼吸管理・集中治療を行っています。こうした患者さんは、慢性期へ移行してからも在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法、CPAP療法、在宅ハイフローセラピーの導入が必要になるケースが多くみられます。またステロイドや免疫抑制剤の導入例も多く、さらには抗線維化薬やバイオ製剤の導入も積極的に行われています。このため急性期の非常に早期から呼吸ケアチームの介入により呼吸リハビリテーションや退院支援を開始し、在宅療養を見据えた治療や支援を展開しています。

慢性期・在宅療養支援においては、これらの慢性期治療の導入時に患者さんの呼吸状態や生活環境、レディネスを踏まえ、多職種で機器選定や設定、指導内容を検討しています。

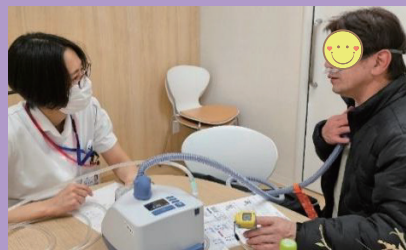


2 呼吸器看護専門外来における外来・在宅移行支援

当センターでは、HOTやNPPV・CPAP、在宅ハイフローセラピーを導入された患者さんが、アドヒアランスを維持し、価値観や生活背景を大切にセルフマネジメントを行えるよう、呼吸ケアチームが関与した呼吸器看護専門外来を設置しました。この専門外来と呼吸器内科外来を中心に、継続的な評価とフォローアップを行い、地域医療機関、訪問看護ステーションなどと密接に連携しながら、安全で安心な在宅療養の継続とQOL（生活の質）の向上を支援しています。加えて、長期にわたる療養生活の中で生じる不安やストレス、病状や生活の変化に伴う心理的負担にも寄り添い、安心して療養を継続できるよう精神的支援にも力を入れています。

また、機器設定やインターフェイスの変更が必要な際には、SpO₂モニタリングデータや遠隔モニタリングデータ、NPPVログデータなどの客観的指標を、患者さんも含めたチームで評価し、その患者さんに合った調整

をタイムリーに行い、身体面と精神面の両側面から在宅療養の継続に向けた支援を行っています。



専門・認定看護師による看護専門外来での支援の様子。必要時には機械を持参してもらい、微調整を患者さんと一緒に行います。



森下裕呼吸ケアセンター長・診療局長／呼吸器内科主任部長（前列中央左）
チームメンバーである、慢性疾患看護専門看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、
薬剤師、理学療法士、作業療法士

1 急性期から慢性期の 包括的治療と呼吸ケア

2 呼吸器看護専門外来における 外来・在宅移行支援

3 地域に広がる多職種連携

3 地域に広がる多職種連携

当センターでは呼吸器疾患の地域医療連携を積極的に推進しており、地域の医療機関や訪問看護ステーションとの迅速な情報共有に向けてICTシステムを導入しました。これにより、在宅患者さんのバイタルサインや症状の変化、画像、設置機器の状況などが容易にかつ迅速に共有可能となり、在宅療養の安全性向上に寄与しています。

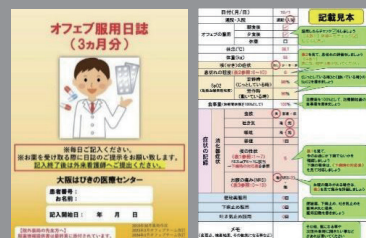
また間質性肺疾患治療に投与される抗線維化薬のニンテダニブ（オフェブ®）は、長期投与が重要な薬剤ですが下痢や吐き気、食欲低下などの消化器症状が高い頻度でみられ、これらの副作用による治療中断や服薬アドヒアランス低下が課題となります。そのため、副作用の早期把握と適切な対処が極めて重要です。

そこで当センターでは、呼吸ケアチームを中心とした多職種によるワーキングチームを立ち上げ、治療を継続できるよう支援しています。その取り組みの一つとして毎日の服薬状況や体調変化、副作用の有無を記録できる服用日誌を作成しました。また患者さんご自身が実践できる副作用への対処方法も掲載しています。日誌を活用することで、医療者との情報共有が円滑になり、副作用への早期対応や治療継続につながっています。

※「オフェブ®服用日誌」は当センターホームページ（呼吸器内科）からダウンロードできます。ぜひ日常の治療管理にご活用ください。



ワーキング会議



オフェブ®服用日誌



オフェブ®服用日誌

セルフマネジメント支援で
活用するツール



セルフモニタリングの
ための日誌



使用状況の把握に役立つ
遠隔モニタリングデータ

8月以降のセミナーのご案内

第33回 医療でつなぐ地域連携ネットワーク South Osaka Cure & Care

8/29
(土)

【日 時】2026年8月29日(土) 17:00 ~ 19:20
【会 場】TKPガーデンシティPREMIUM心斎橋3階
大阪市中央区南船場4-3-2
【内 容】
〈教育講演〉-----
『バイタルリンクによる地域連携の取り組み
～当院の運用状況と課題～』
大阪はびきの医療センター
看護部・慢性疾患看護専門看護師/平田聡子
『2型糖尿病治療の最近の動向』
大阪はびきの医療センター
糖尿病・内分泌内科主任部長/櫻根晋
〈特別講演〉-----
『縦系の医学と横系の医学:関西から世界へ、
肺癌治療・喘息治療最前線』
大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫内科学
講師/平田陽彦先生
【会 費】1,000円 ※当日はクールビズでお越しください。
【申込方法】同封のFAX返信票にてお申込みください。
【共 催】柏原市医師会/羽曳野市医師会/藤井寺市医師
会/松原市医師会/大阪狭山市医師会/富田林医師会/
河内長野市医師会/大阪はびきの医療センター/帝人ヘル
スケア株式会社

はびきのDチャンネル episode31

9/17
(木)

【日 時】2026年9月17日(木) 14:00~15:00
【会 場】Web開催(ZOOM)
【対 象 者】医療関係者
【申込方法】下記QRコードより事前登録ページへアクセスし
ていただき、申込フォームに必要事項をご入力
ください。

〈プログラム〉-----
当センター皮膚科にご紹介いただいた症例の情報共有と
地域医療の啓発活動として、Webによる症例報告会を2か
月に1回実施しています。この活動を通して、皮膚疾患に遭
遇することの多いプライマリケアの先生方にもご協力いた
だき、地域の皮膚科診療を支えていきたいと考えています。

大阪はびきの医療センター皮膚科地域連携カンファレン
ス「プライマリケアにおける皮膚科診療のTips」と題し、
センター皮膚科医師がそれぞれ症例の
報告を行います。

〈ナビゲーター〉-----
大阪はびきの医療センター
皮膚科主任部長/片岡葉子
【主 催】大阪はびきの医療センター



地域医療連携勉強会

9/19
(土)

【日 時】2026年9月19日(土) 14:00~16:00
【会 場】LICはびきの 2Fパソコン教室
〒583-0854 羽曳野市軽里1-1-1 TEL.072-950-5500
【内 容】〈開会の辞〉藤井寺市医師会 会長/竹口輝彦先生
講演①(14:10~14:50) 座長:医療法人ラポール会青山病院 院長/岡田薫先生
『直腸肛門疾患よもやま話』 講師:青山病院 副院長/野田雅史先生
講演②(15:00~15:50) 座長:大阪はびきの医療センター 副院長/赤田忍
『肝胆膵外科医が考える地域医療貢献』~南河内医療圏で何ができるか~
講師:大阪はびきの医療センター 消化器外科部長/柏崎正樹
〈閉会の辞〉青山病院 院長/岡田薫先生
〈大阪府医師会生涯研修1.0単位を取得予定。CC 0・12(最新のトピックス・地域医療)〉
【申込方法】青山病院までご施設名・ご氏名を記載いただき、ファックスで連絡頂ければ幸いです。
FAX送信先:青山病院 FAX.072-953-1285 右記のQRからも申込可能です。
【申込期日】2026年9月11日(金)
【共 催】藤井寺市医師会・青山病院・大阪はびきの医療センター



参加申込み
フォーム



学術報告さるーと

第13回 日本アレルギー学会 近畿地方会 当センターが主催しました。

6月21日(日)に大阪国際会議場において第13回日本アレルギー学会近畿地方会を主催しました。

当日は200名を越える参加をいただき、全てのセッションを盛況の内に終えることができました。アレルギー学会は内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの先生方が参加されるため「慢性咳嗽」、「成人期の食物アレルギー」、「コメディカルとの連携」という3つの科横断的なプログラムを準備しました。

また若手向けとしてMeet the professorなどを企画しました。一般演題は17登録があり当センターから2演題を報告しました。



学会に参加した当センター小児科医師



当センター作成ポスター

なお本学会のポスターは当センター作成です！
全ての関係者に心より感謝いたします。

第101回 日本結核・非結核性抗酸菌症 学術講演会 in 岡山

6月19日～20日、岡山コンベンションセンターで開催された「第101回日本結核・非結核性抗酸菌症学術講演会」に参加してきました。

当センターからは、橋本章司部長が座長、そして5つの演題を医師、看護師、臨床工学技士が発表しました。

結核・非結核性抗酸菌症という専門性の高い学会ですが、症例報告からリスク因子の解析まで、どの演題も大変興味深い内容でした。

今回得た知見を今後の診療・業務に活かしていきたいと思えます。

学会では経験10年以下の若手医療者が出場できるクイズ大会が開催され、当院から3名がチームを結成し、見事ダントツ優勝!素晴らしい活躍に会場也大いに盛り上がりました。



- デラマニド販売後の当院における44例の
多剤耐性結核についての報告
／永井崇之主任部長
- 潜在性結核感染症 (LTBI) 治療による
肝機能障害の臨床経過と危険因子に関する検討
／永井裕太
- 当院における抗結核薬による
皮疹の現状とその検討
／前田恭平
- 当院で経験した
外国人骨関節結核7例の症例検討
／山口良太
- 当院の結核患者の接触者健診の方法について
／橋本美鈴
- 多職種を対象としたN95マスクフィットテストの
効果と今後の課題
／西上奈緒子
- 腎機能が肺の空洞化病変および
粟粒結核に及ぼす影響
／石原麻美

当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けます。



当センターのスタッフを紹介します！ はびきのPERSONA



運がいい バイクライフ

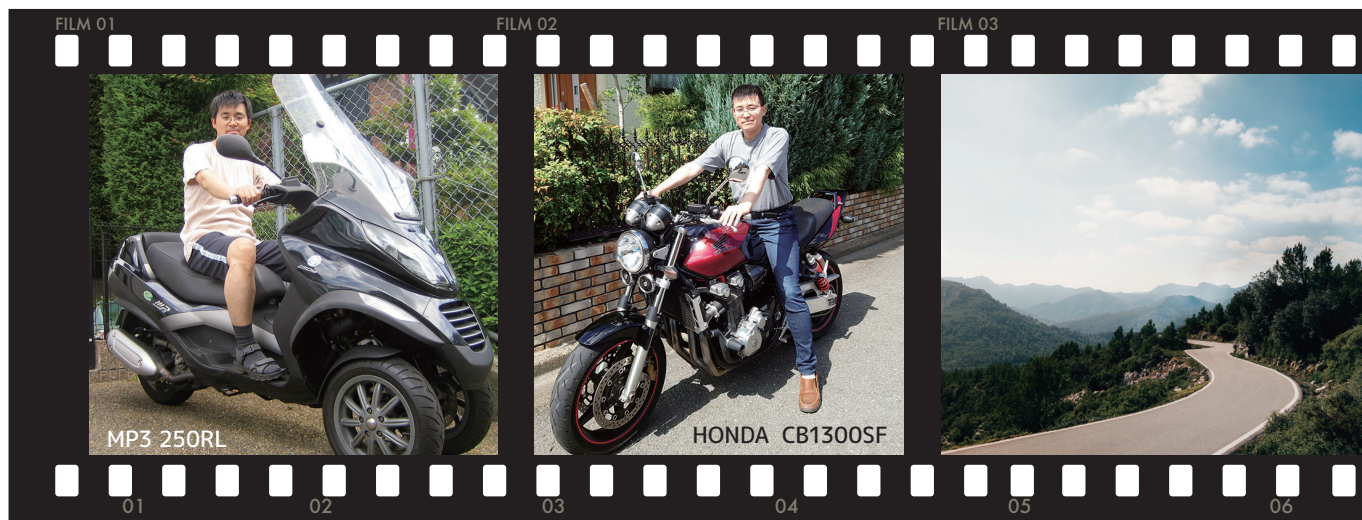
医務局 産婦人科主任部長
安川 久吉

幼 少期からバイク禁止で育ちました。大学時代、同期のバイクやF1全盛期のホンダに興味はありましたが、縁がなく時が過ぎました。

子供の進学で奈良市に転居、通勤手段を探していた際、雑誌でMP3 250RLに目がとまりました。思い切って購入したのがバイクライフの始まり。当初普通自動車免許のみで運転可能でしたが、規制が厳しく限定免許が必要に、免許センターで1日乗車し限定免許を取得。実はこれがAT限定二輪免許と同等の扱いで、ラッキーにも限定解除のみで普通二輪免許に化けました。

MP3からHORNET250に乗り換えた頃、助産師仲間と大型を取ろうという話になり、大型二輪免許を取得、CB1300SF（一目惚れ）を購入。CB1300SFは安定感がばつぐんで走ることで仕事の疲れやストレスを発散できました。通勤用はHORNETからPCX（原付2種）に乗り換えも高速に乗れず結局手放すことに。CB1300SFも車検切れのタイミングで一昨年の秋に手放すことに。

50歳を超えてどのバイクにしようか今も思案中です。



N!

勤務中には見せない職員の意外な一面や、
今夢中になっているコトをご紹介します。
一人ひとりの等身大の姿を通して、
身近に知っていただけるページになれば
嬉しいです。



リハビリテーション室から見える金剛山地



南河内、再び

リハビリテーション科
副技師長

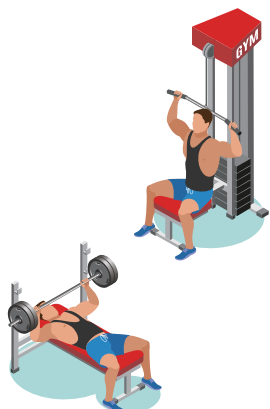
奥野 友和

私 は約20年勤務した大阪急性期・総合医療センターからちょうど1年前に当センターに異動してきました。実は私はここ南河内の出身です。いつかは育ててくれた故郷のために働きたいと考えていたのですが、なかなかカタチとならずその想いに扉を閉めていた矢先に異動辞令がありました。

こちらでは子供の頃は当たり前のように傍にあった金剛山地が毎日力を与えてくれているように感じ、職員の皆さまはとても温かく、患者さまは聞き慣れた河内弁をお使いになられ、南河内によって育まれてきたはびきの医療センターの良き文化を肌で感じ、心地よくもあり懐かしくもあり、忘れかけていた大切なことを日々思い出させてくれています。南河内に再び引き寄せられた

運命を受け止め、地域の皆さまと苦楽を共にしながら強い絆を結んで、南河内のために少しでも力になればという想いで現在を過ごしております。

皆さまどうぞ宜しくお願いいたします。



実は毎日トレーニングしてから出勤しています！



前院では健康寿命延伸に取り組んでいました。
南河内でもできれば！



地域医療連携NEWS

「心不全 × 多職種 × 地域連携」～心不全診療の3本の矢～

我が国の人口高齢化は着実に進行し、高齢者心不全も近年急増しています。心不全は多種多様な病因や病態を有するため、個々の症例に応じた適切な治療選択が必要となります。特に高齢者では複数の併存症を有する例が多く、治療選択は複雑化の一途を辿っています。

近年心不全マネジメントにおいては、発症予防や再入院予防を柱とした多職種連携による管理と支援が重視されるようになりました。当センター心不全ケアチームでは、急性期の心不全チーム医療から、退院後の外来フォロー・地域連携への一連のつながりを、毛利元就の「三本の矢」に倣い、組織作りとチーム連携に取り組んでいます。

- 一の矢 急性期心不全治療（集学的治療）
- 二の矢 多職種連携による介入（自己管理支援）
- 三の矢 ケアが途切れない外来管理（＝地域連携）

具体的には、①急性期診断と集学的治療を行い早期退院の道筋を付ける。②多職種連携による療養支援により切れ目のない心不全ケアを確立し、退院を見据えた「心不全自己管理」の質を向上させる。これらを駆使し心不全の再発予防や再入院予防を減らすことを行動目標としています。既に一の矢と二の矢は放たれており、更なる深化を目指して活動しています。今後三の矢を放つ（③地域連携体制として進化させる）ためには、「地域で一緒に心不全を診ていくためのヒント」を収集・実証する必要があると考えています。その方策の一つとして、「地域で支える心不全診療」連携推進を目的に、心不全診療研修会や地域の多職種交流会の年内開催を予定しています。

また、今年度から来年度にかけては、急性期から慢性期まで一貫したチーム医療と地域連携を柱にした心不全センター化の整備を進めたい考えです。私たち心不全ケアチームは、多職種協働による質の高い心不全診療を通じて、地域医療の更なる質の向上に貢献したいと考えています。

循環器内科
主任部長

原田 光一郎

HARADA KOICHIRO

〈経歴〉1990年大阪公立大学（旧大阪市立大学）卒業。大阪市立大学での初期研修を経て、東京大学大学院医学系研究科にて学位（医学博士）を取得後に、米国ハーバード大学にて研究に従事。帰国後、大阪大学医学部循環器内科に入局。京都大学、国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院での勤務を経て、2022年10月より現職。

〈資格〉日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医・JMECCインストラクター／日本循環器学会専門医／Fellow of Japanese Circulation Society／日本脈管学会専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医・心血管カテーテル治療専門医／日本心臓リハビリテーション学会認定指導士／日本循環器学会 ITC-AHA ACLS インストラクター及びコースディレクター／日本救急医学会 ICLSインストラクター／日本医師会認定産業医／日本静脈学会認定弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター／臨床研修指導医／緩和ケア研修会修了／大阪府難病指定医／身体障害者福祉法15条指定医（心臓機能障害・循環器内科）／心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了



循環器内科の
詳細はこちら

連携医療機関（登録医）のご紹介

たけのこどもクリニック 院長・管理者／竹腰 信人 先生

2026年8月からイオンタウン松原の南に位置するクリニックテナントで、土日祝も診療しているこどもクリニックとして開業しております。

クリニックには院長・副院長だけでなく、非常勤医師複数名にも協力いただき、診療を行っています。複数の医師がそれぞれの専門性も生かして、心臓外来、内分泌外来・思春期外来、アレルギー外来と幅広くかつ一歩進んだクリニック診療を行い、必要に応じて、大阪はびきの医療センター様をはじめとする高次医療機関へご紹介させていただいております。お困りの際は、お気軽にご相談ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	○
14:00～15:30	☆	☆	▲	☆	☆	▲	☆
16:00～19:00	○	○	▲	○	○	▲	○

▲＝水・土の午後診は14:00～18:00までです。

☆＝ワクチンやスキンケアなど非発熱患者/非感染症患者様の診察に限らせていただいております。施設の管理上、臨時に休診日を設けさせていただくこともあります。



☎072-339-0101

〒580-0015 大阪府松原市新堂4丁目1186-1 松原新堂クリニックビル1F [URL https://www.takenoko-kc.com/](https://www.takenoko-kc.com/)

医療法人 やまどり医院

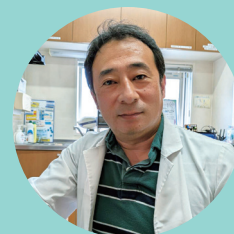
内科・呼吸器内科・小児科

理事長・院長／山鳥 忠宏 先生

やまどり医院は大阪府藤井寺市にある、内科・呼吸器内科・小児科のクリニックです。

大阪府藤井寺の地で40年以上に渡り、地域住民の健康を願い、“地域に住んでいる皆さまに健康と安心をお届けします”をモットーに、医療を提供しています。在宅訪問診療や往診もおこなっており、地域に密着した医療を目指し、日々の診療にあたっています。前院長／山鳥忠郎が開設した旧診療所から現在の診療所に移転し、開設時の「地域の全ての方々の健康を守ること」「優しく誠実で家庭的な診療」を目標に、今後も皆様のお役に立ち続けていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	休診
18:00～19:45	○	○	○	○	○	休診	休診



〒583-0018 大阪府藤井寺市西古室1丁目21-25（西古室郵便局に近接）

☎072-954-8168 [URL http://www.yamadori-clinic.com/](http://www.yamadori-clinic.com/)



登録医へのご登録のお願い

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。





地域医療連携室より

- ✓ **できるだけ事前のご予約をお願いします。**
- ✓ 紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。
- ✓ **呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科は、完全予約制となっております。**
必ず地域医療連携室を通してご予約をお取りくださいますようお願いいたします。
- ✓ **当日の緊急受診**が必要な患者さんにおきましては、できる限りお受け入れできるよう調整いたしますので、**地域医療連携室にご連絡**いただけますようお願いいたします。
- ✓ **オンライン予約システム（C@RNA Connect）**をご利用ください。
（事前に申し込みが必要です）。
詳しくはホームページまたは地域医療連携室にお問い合わせください。

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります。
私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、
思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

072-957-2121（代表）

<院内診療科のご案内>（2026年8月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科、産婦人科、小児科、新生児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科、歯科口腔外科、麻酔科（高内裕司）、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科、臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

センター公式
HP・SNS

